

# 「これからの時代に向けて」

## CAL研究会 勉強会を開催

【大阪】CAL研究会は「CAL研究会」(勉強会)を18、19日に開催。当初、大阪市内での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、オンライン方式に切り替えて実施した。

今回の勉強会は「これからの時代に向けて」がテーマ。初日は同会の生川正洋氏が「CALの再出発に向けて」と題し講演。「時

早く対策を講ずることが大切」と呼びかけ、告知技術や積極的な接客姿勢の重要性、店頭の変革や人材育成の必要性、地域の異業種との連携やインターネットの活用などを説いた。

代はさまざまな要因が絡み合い複雑な状況。こういつた時代だからこそ目前の減少にとらわれ過ぎることなく、本質に戻って考えることが大切だ。われわれの使命や、やるべきことが見えてくる」としたうえで、国際情勢や脱炭素への動きなどに触れ「中長期的に見ればガソリン車は確実に減少する。脱ガソリン時代に向けて、一刻も

智頭石油(鳥取県智頭町)の米井哲郎代表取締役社長は「原点に返って、新しいスタートを切ろう」をテーマに登壇。国内外の脱炭素や車のEV(電気自動車)化などの動きを紹介したうえで「エネルギー源が変化しても車は残る。車販など車社会に役立つサービスを、われわれの経験や人材を生かしてつくり出し、地域に役立つサービスを考えていかなければならない。必ずチャンスはある」と述べた。また同社担当者が今年度の取り組みや経営方針、保険事業などについて説明した。



講演する生川氏